

令和6年度 岡山県農林水産総合センター農業大学校評価システムシート(最終)

教育目標	岡山県農業の次代を担う人材の育成並びに就農支援
------	-------------------------

重点目標	1 農業を志す意欲ある学生の確保		総合評価	A	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった	
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
1 幅広い人材確保に向けた学生募集活動の実施	- オープンキャンパスを3回開催し、1回目は県内農業関係高校を対象を絞りながら、その対象が求める情報提供を行い、農大への進学意欲を醸成する。2, 3回目は、特に対象を絞らずに実施する。 - 学校見学への個別対応等により、農業大学校の理解を図る。	- 参加人数:延べ100名以上(R5年度実績:145名) - 学校見学対応件数:10組(R5年度実績:7組)	- 参加人数:延べ182名 6/8、7/27、8/24の計3回開催し、1回目(農業高校対象)では、83名と特に多くの参加があった。概要説明や寮案内の内容を改善し、満足度の向上を図った。 - 学校見学対応件数:8組 - 個別の見学が4組(延べ7名)、農業高校の見学が4組あり、学校概要の説明とほ場の見学等を実施し、農大の魅力を説明した。		A	- 参加者アンケートを参考に、より満足度の高い内容に改善する。 - 例年高校1年生の参加はごくわずかであるが、進路決定の早い高等学校では2年生になるまでに進路を決定する場合もあるため、1年生にも積極的に参加してもらえよう各高等学校へ呼びかける。 - 個別の見学にも柔軟に対応が可能であることや夏の体験学習での見学が可能であることを高校ガイダンスやホームページ等でPRする。
2 高校との連携強化(農大への理解促進)	- 校長及び副校長が農業関係高校に絞って訪問し、その効果を高める。 - 農業高校の校長会への出席や進路担当教諭との連絡会議の開催により、情報交換を行い、課題の把握に努める。 - 高校の進路ガイダンスに積極的に参画し、情報を提供する。農業関係高校以外からの要請にもできる限り応える。	- 学校巡回:延べ20校(R5年度実績:延べ26校) - 校長会等出席:3回 連絡会議開催:2回(R5年度実績:3回、2回) - ガイダンス等参加:20回(R5年度実績:20回)	- 学校巡回:延べ23校 - 農業関連高校を中心に、主に校長と副校長で対応した。一般高校は近年入学のあった3校に絞って対応した。 - 校長会等出席:3回 連絡会議開催:2回 農業高校校長会等の会議や行事へ出席し高校からの情報収集に努めた。 - ガイダンス等参加:17回、157人 - 校長、副校長、教務課長、研修課長で分担し、学校概要、学生募集案内等について情報提供した。		B	- 例年農業関連高校からの入学が多いため、今後も農業関連高校を中心に学校訪問を実施する。また、過去に入学実績があるなど学生募集に効果が期待できる高校も訪問する。 - 農業高校からの学生募集に関する要望や知見を参考に、入学試験やオープンキャンパス等の運営など、学生募集に係る内容を検討する。 - 進路ガイダンスは農業関係高校を中心に、農業関係以外からも実施依頼がある。学校PRの有効な手段であり今後も重点的に取り組む。
3 令和7年度入学生の確保	- ポスター、チラシ、パンフレット等を活用して入試情報を発信する。 - 試験日程や募集期間を見直し、受験生の選択機会を増やす。	志願者数:延べ45名以上(過去5年平均:43.8名)(R5年度実績:32名)	- 志願者数:59名 - 昨年度から志願者が大きく増加した。 - 保護者向けの農大紹介パンフレットを作成し、オープンキャンパス等で配布し、魅力の周知に努めた。 - R7年度入学から一般入試(前期・後期)を土曜日に実施するとともに、一般入試(後期)は大学入学共通テスト後に出願できるよう受付期間を延長した。		A	- 学校訪問や進路ガイダンス、オープンキャンパスで、パンフレット等を有効に活用し、入試情報の周知や農業大学校の魅力を積極的にPRする。 - R8年度入学の学生募集についても受験生が受験しやすい環境整備を継続して実施する。

※将来の岡山県農業の担い手育成に向け、農業を志す高校生等に対し、農業大学校のPRを行い、幅広い人材の確保を図る。

重点目標	2 農業大学校の魅力向上		総合評価	B	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった	
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
① 質の高い教育の提供 (授業内容の充実・強化)	- 岡山大学、専門分野の学識経験者等、外部講師の協力を得て、高度な教育の機会を確保する。 - 学生満足度調査の分析結果を基に授業への工夫を図っているが、その効果を確認する。	- 専門分野外部講師による授業数:38講座以上 (R5年度実績:40講座) - 学生の関心度(満足度):10点満点の7点以上 (R5年度実績:6.6点)	- 専門分野外部講師による授業数:40講座 - 特別講義として、農研機構の講師によるゲノム編集技術に関する出前講座を実施した。また、JAバンク、農業信用基金協会の担当者による金融経済教育や農業制度資金について講義を行った。 - 学生の満足度:7.7点 - 実習や技術習得に関する評価が非常に高く、講師や知識習得についても満足度が高い。		B	- 外部講師による専門性の高い授業内容と授業数を維持するとともに、時代の趨勢に合わせて臨時講座を検討する。 - 有機農業の基礎知識を修得し、理解を深めることは肝要であるため「有機農業論」を選択科目から必修科目に変更する。 - 学生に対し、シラバス等により、知識習得の到達目標を授業前に示し、学習に対する意欲の向上を図る。
② 実践能力の向上(資格取得の促進)	- カリキュラムに各種資格取得に向け、補習授業で対応する等資格取得を推進する。 - 日本農業技術検定については、事前の受験対策と各専攻での専門分野の講義で、合格率向上を図る。	- 資格取得者数(取得割合):20%以上 (R5年度実績:4名8.3%) - 日本農業技術検定2級合格率:20%以上 (R5年度実績:7名9.4%)	- 資格取得者数(取得割合)15名、38% - 狩猟免許(わな猟)(6名:86%)、2級認定牛胴蹄士(1名:100%)、フラワー装飾技能士3級:(4名:100%)、農業簿記検定3級:(1名:13%)、毒物劇物取扱者:(1名:17%)、危険物取扱者乙種第4類:(2名:15%) - 日本農業技術検定2級合格率:5名、8.5%)		C	- 資格取得のためには、学生が目標に向かって自ら努力して学習する動機づけとモチベーションを維持する工夫が必要である。 - 日本農業技術検定については、事前の講義での受験対策と、各専攻での専門分野の研修で、合格率アップを図っていく。
③ 職員の指導能力等資質の向上	- 職員の指導能力向上に向け、国等が実施する各種研修へ積極的に派遣する。 - 県保健福祉センターに職員研修を依頼し、職員のスキルアップに努める。	- 国等研修会参加職員数:1名程度 (R5年度実績:3名) - 職員研修回数:1回以上 (R5年度実績:0回)	- 国等研修会参加職員数:2名 - 農作業安全に関する指導者向け研修会オンライン参加、西日本ブロック農業者研修教育施設指導職員研修会(畜産) - 職員研修回数:1回 - 備前保健所の保健師を講師に迎え、若者の特徴や心の病の気づき方と対処方法等について学び、学生指導の一助とした。		B	- 国等の研修は、農業大学校での勤務経験が少ない職員を中心に、今後も継続して受講する。 - 特性を持つ学生が増加していることから、県保健福祉センター等に職員研修を依頼する。
④ 教育環境の整備・充実	- 充実した教育環境の整備に向け、機械・施設及び機材の整備、修繕を計画的に進める。 - 学生寮の設備に関しては、寮自治会と話し合いながら、後援会の協力も得て、更新・メンテナンスを行う。	- 施設整備、改修実績(導入実績) - 学生の満足度:10点満点の7点以上 (R5年度実績:6.4点)	- バイオ実験室冷蔵庫、けん引用トレーラー、現場教室・本館のLED化、ハウス被覆資材や環境制御装置の更新を実施した。 - 学生の満足度:7.4 寮自治会との話し合い(5,2月)の中で改善要望を聞きながら、居室のエアコンの更新、LED化を進めた。		B	- 教育環境の高度化に向けて、計画的な教育施設や設備・機械の整備(更新)、充実を図る。 - 照明のLED化、寮のエアコンの更新を図ってきており、順次寮のエアコンの更新を進めていく。
⑤ 広報活動等の強化	- 講義や実習、寮生活等の学校生活の様子やオープンキャンパスの告知、入試情報等をHPで発信するとともに、SNSを活用した情報発信に取り組む。 - 収穫祭や新鮮市など地域とふれあう各種イベントに関してはマスコミを積極的に活用し、農大のPRに努める。	- 情報発信(更新回数):60回以上 (R5年度実績:45回) - 農大通信の発行回数:5回 (R5年度実績:6回)	- HPの情報発信(更新回数):78回 - インスタグラムの情報発信:77回 「ミニトピックス」としてHPに日々の様子を発信する他、インスタグラムを開設し、よりタイムリーに情報発信ができるようにした。 - 農大通信の発行回数:6回 イベントの様子がわかるように農大通信を発行した。		A	- 授業をメインに「ミニトピックス」としてホームページに掲載しているが、インスタグラムには実習や農大生活の様子がわかるよう、より内容を充実させる。 - 農大のイベントについては引き続き農大通信を発行してオープンキャンパス等で掲示する

※教育内容の充実に向け、職員の資質向上に努め、実践的な教育による専門学校としての特色ある学校づくりを推進するとともに、学生の技能・知識の向上を図る。

重点目標	3 就農促進と進路指導体制の強化		総合評価	B	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった	
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
① 就農意欲の醸成	農大OBや農業後継者との意見交換、農業生産法人説明会により、農業経営をより深く理解する機会を提供し、就農意欲の醸成を図る。	- 就農及び農業関係団体・企業への就職率:80%以上 (R5年度実績:83%) - OBや農業後継者との意見交換会:2回 (R5年度実績:4回)	- 就農及び農業関係団体・企業への就職率:81% - 法人等への就農率:47% (過去5年間平均:37%) - OBや農業後継者との意見交換会:6回 - 海外農業研修、生産物流通論、GAP実践論、社会科学基礎の講義においてOBの説明を受けた他、農業後継者との交流会を1回実施した。		B	- 農大の講義には積極的に農大OBを講師に招いている。 - 農大OBによる社会科学基礎の講義は好評のため継続実施する。 - R6年度から、農業後継者との意見交換会をカリキュラムに盛り込み、今後も継続して実施する。
② 進路選択・決定の早期意識付け	- 民間と連携したセミナーの開催等、早期から進路に対する動機付けを行う。 - 進路指導においては各専攻の担当と十分な情報共有を図り、適切な進路指導を行う。 - 進路希望調査、個人・三者面談等により、進路希望・就職活動状況を把握するとともに進路指導を行う。	1年時末の進路目標決定者割合:100% 2年時11月末の内定率:70%以上 (R4年度実績:86%) (R5年度実績:71%)	1年時末の進路目標決定者割合:100% - 進路希望調査や社会科学基礎の講義により、進路決定を促している。現状では明確に進路が決定している学生はいない。 2年時12月5日時点の内定率:81% - 選考に対応するため、学生の希望に沿ってES作成の支援や面接の練習を実施した。進路指導の要望がない学生も見られるが、個々に声掛けを行い、就職活動を促した。 - 進路決定に際し、家族とも相談する機会を設けるため、1年時の夏季ならびに冬季休業時に希望調査を行い、その結果を踏まえた面談を実施した。		A	- 社会科学基礎講座では毎回学生アンケートを実施しており、満足度が高いことから、取り組みを継続する。 - ES作成支援や面接練習を実施する。個々の学生の意向やパーソナリティーに寄り添い、積極的なコミュニケーションをとる。 - 計画的に実施する面談の他、必要に応じて声掛けや面談を実施する。
③ 卒業時の進路決定	- 農業法人の説明会や、農業関連企業へ就職したOBとの座談会等を開催し、農業関連の就職先への学生の理解を深める。 - 個別指導の強化により、求職と求人のマッチングを図る。	卒業時進路決定率:100% (R5年度実績:97%)	- 卒業時進路決定率:91% - 卒業後すぐに就職せず、進学等する学生がいる。 - 副校長、専攻・コース職員が学生への個別に対応した。農大への求人は逐次学生に開示しており、ハローワーク等とも連携して求職と求人のマッチングを図った。		C	- すぐに就職を希望しない意向の学生についても就労の意識が必ずしも低いわけではない。学生自身が納得のいく進路決定を行えるよう支援を行う。 - 学生へは積極的に意識づけや声掛けを行い、要望に応じて個別指導を実施する。

※進路意識、就職活動意識の高揚を図るとともに、基礎学力の向上の他、履歴書・エントリーシート等の作成など進路決定に向けた支援の充実、体制の強化を進める。

重点目標	4 地域の担い手に対する研修による多様な人材の育成		総合評価	B		評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった
課 題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策
① 農業経営の発展に向けた研修の充実強化	- 農業経営に必要な資格免許として、応用技術研修(トラクター、けん引、小型建機、アーク溶接、フォークリフト)を実施する。 - 受講者へのアンケートを実施し、研修内容をより充実していく。	- 受講者数(資格取得者数) 資格取得者:50名以上 (R5年度実績:66名) - 研修者の満足度10点満点の8点以上 (R5年度実績:9.0点)	- 受講者数:50名 - 資格取得者:49名 トラクター 14名、けん引 12名、小型建機 14名、アーク溶接 2名、フォークリフト7名 - 研修者の満足度:9.4		B	引き続き、資格取得を促進するため、研修や申請のサポートを行う。

※実践的な農業体験の場の提供と関係機関等との連携による即戦力となる人材の育成を図るとともに就農定着を進める。